
らくらくさんぽ 51

2016. 11. 13

大休峠でキノコ汁

★★ (1.5)

僕が子どもの頃、今から 50 年くらい前かな。日曜日の昼になるとテレビから「1 週間のご無沙汰でした。司会の玉置宏です」とお決まりのフレーズが流れてきた。番組名は『ロッテ歌のアルバム』。

昔も今も、ロッテは押しも押されもせぬガムのトップメーカーだけど、昔は遠足のおやつに必ず仲間入りしていたガムに、今やお菓子のイメージはなく、口腔衛生・虫歯予防食品に成り上がってしまった。

消費量も激減しているらしい。ヘビーマユーザーだった団塊の世代が第一線を退き、クチャクチャ噛まなくなったのがその要因だとか。子どもの咀嚼力が衰えているのも、ガムがお菓子ではなくなったのが、かなり影響しているらしい。

まだまだ本編には入らんで。時は流れて僕は思春期 17 歳。受験のため初めて東京に行き山手線に乗ったら、見えたんだな。新大久保駅のすぐ近くにロッテの大きな工場が。東京タワーと同じくらい『東京』を実感したシーンだったのを覚えている。

当時はロッテが韓国の財閥の一つだなんてまるで知らなかったなあ。

例会とは関係ないことをだらだら書いてしまったけど、要は「3 か月の

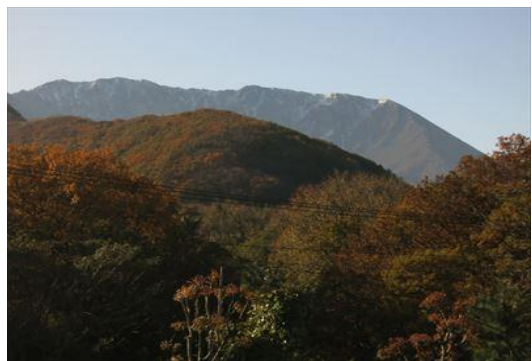
ご無沙汰でした」。

9 月は入院していて例会に欠席したので休み。10 月は地震で例会が中止になったのでまたまた休み。この例会記と向き合うのが 3 か月ぶりになってしまった。

みんなにあれこれ聞かれるから公表しとくけど、病院では舌の左半分を切り取って、そこに左太腿の筋肉をつなぎ合わせ、左首のリンパ節なんかも全部取っちゃう手術をした。

術後がとっても大変で、もうあんな思いはしたくないわ。主治医によると、太腿はあくまでも太腿で、舌にくっつけたからといって永久に舌にはならないそう。

だから口の中に消しゴムが入っているような感覚で、ちゃんとしゃべれんし食べれん。ただし舌が半分のままだと、もっとしゃべれんし食べれん状態になるとのこと。かといって手術しなければ死んでしまうし……。困ったもんだ。



琴浦 P の集合は 8 時半とゆったり。いい天気だ。乗り合わせて香取へ向かった。正面に見える大山には先日の雪がまだ残っている。琴浦アルプスも西斜面の上の方はまだらに白い。県道の

両側には「ほんとに晩秋？」と疑いたくなるくらい、全体的に地味な紅葉&黄葉が広がっていた。

紅葉がちんたらしているならキノコも遅れているはず。まだあるかな？と楽しみにしていたら、地元の茸採りにいさんが「今年はない」ときっぱり。早々にあきらめざるを得なかったが、キノコ探しが何より好きな 昌隆&三千男コンビは、本隊よりも先に歩いて山の中をゴソゴソ。やっぱり収穫はゼロだったらしい。

車を下りて 30 分ほどだらだら上って大山道との合流点・岩伏分かれ。そこから大休峠避難小屋までは、多少のアップダウンはあるけど比較的平坦なので、病み上がりの僕でもなんとか歩けそうだ。

今回は昼ごはんは、キノコ汁&芋煮鍋を作ることになっていた。二つのカセットコンロと二つの鍋が参加者のザックにぶらさがり、食材も分担してザックに収まっている。キノコは事前に琴浦有志チームが山に採りに行って準備。サトイモはらくらく山歩会公認運転手・浜ちゃんからの提供だ。

岩伏分かれから 1 時間あまりで避難小屋に着き、早速昼ごはんの準備が始まった。サトイモは事前に火が通してあるから勝負が早い。お湯と食材をドバッと投入し、あーだこーだ言いながら味をつけ、30 分ほどで二つの鍋ができあがった。

熱〜いサトイモは、とりあえず口の中に放り込んで、舌の上でコロコロすれば食べられる温度になるのだけ

ど、太腿舌でそんなことをしたら確実に上あごの皮がむける。爺やが出来の悪いおぼっちゃまに食べさせるように、フーフーして冷まさねばならないのだった。

言うことを聞かなくなって初めてわかる舌のありがたさ。皆さんも舌の横側にできた傷にはご注意を。



やっぱり普段の山歩きと同じで、上りよりも下りの方が足にきた。往きの疲労がたまっていたせいもあるのだろうけど、左足に力がなくなってきて、右足でカバーして歩かねばならなかった。左足は術後 2 週間ほど安静を余儀なくされていたから、『おぼっちゃまの足』になってしまっていたのだ。

でも「やっぱ山はいいな」と心から思う。山を歩いたのは 7 月の草津白根山以来だった。あの時は第一次入院を控えていたのだけれど、日常の憂さや不安を何もかも忘れることができた。

そして今回、不安はさらに増大した状態でも、少なくとも山にいる間は以前の自分と同じ気持ちになれた。

山が僕に何かを与えてくれるとは期待していない。でも山を歩く楽しさはずっと感じ続けていたい。

(第二の人生)